キャラクター名
09__鈴谷涼子トライver

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ モルフェウス	ワークス	暗殺者	カヴァー	投資家
オプショナル	ノイマン	年齢	46	性別	女性
覚醒	憤怒	衝動	嫌悪	初期侵食率	32 %
出自	犯罪者の子	経験	大事故	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	5	1	3			9
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	23
行動値	22
(非装備時)	22
戦闘移動	27
全力移動	54

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	7		ＲＣ			交渉		
回避			知覚			意志			調達	7	
運転：二輪	2		芸術：			知識：ﾚﾈｹﾞｲﾄﾞ	2		情報：裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ボルトアクションライフル	射撃	9r+7	-	8		ﾏｲﾅｰｱｸｼｮﾝ使用で達成値+5、同円不可
		0				
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
ウェポンケース	
コネ：要人への貸し	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
起源種	P	N		
刃金充	P 連帯感	N 偏愛		
霧谷雄吾	P 好意	N 敵愾心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	16	残り財産P：	3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
光芒の疾走	1	1	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	-		
効果：戦闘移動、離脱可。ｼｰﾝLv回								
クイックモーション	1	2	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	-		
効果：ｴﾌｪｸﾄ以外の行動を1つ								
ｺﾝｾ：エンハイ	1	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ		
効果：C値-Lv(下限7)								
小さな塵	4	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	射撃		
効果：攻撃力+(Lv*2)								
マルチウェポン	3	3	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	-		
効果：2丁拳銃、達成値-(5-Lv)								
構造看破	★							
効果：								
写真記憶	★							
効果：								
プロファイリング	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

購入判定
ﾎﾞﾙﾄｱｸｼｮﾝﾗｲﾌﾙ(目標値15)　命中0　攻+8　射程200　マイナー使用で達成値+5

　黒のパンツスーツを着た40代の女性。女性にしては長身で、やや気怠げな雰囲気。首から下げたドッグタグは「S」の文字以降が千切れている。よく見ると筋肉質だが、着やせしていて気付かれにくい。
　20年程前までは知る人ぞ知る名うてのスナイパーであったが、とある事件(自身の覚醒とレネゲイド拡散)をきっかけに引退。現在は無名の投資家としてUGNに寄付したり重火器をコレクションしたりしている。武器がないと無能なので常にキャリーケースを引いており、中にはそのときお気に入りの重火器が入っている。

++++・過去|
　人を撃つ仕事をしていた。金を貰って命を奪う仕事だ。そういうことが当たり前だった。
　命は当価値でなく報酬は時に保障されず誠実に仕事をしても恨まれることがある。
　時にその一発の弾丸が何かを変えることもあったかもしれないが、そんなのはその一発を依頼した奴の仕事であって、引き金を引く時の心は実にフラットなものだ。その一発で失われる一つの命がその他の100人を救うにしろ、地獄に突き落とすにしろ、手元に残るのはアタッシュケースに詰まった札束でしかない。
　そうして得た金で良い武器を買い、より良い仕事をする。さらに良い仕事をすればさらに金が入ってくる。金が余るなんてことはない。良い武器は高いのだ。人ひとりの命の金額よりずっと高い。採算が合わない非効率な仕事だ。そう思って、気紛れに人を撃たなくてもいいかも知れない仕事を受けてみた。
　失敗だった。
　発掘隊の護衛という仕事は、しかし実際にはインディジョーンズのお守り役と言った方が適切で、時に正気を疑うような事態が一行の足を何度も止めた。
　度重なるトラブルと不運。遂には崩れ落ちた遺跡の中に取り残され、いくら声を上げても返事はなかった。
　ひとしきり悪態をついた後、なんとか自力で脱出を試みなければならないと悟って見えない天を仰ぐ。
　時間を計る手段は己の空腹と疲労具合の程度として、今自分が客観的な冷静さを保っているかどうか判断することも出来ない程度にはピークを過ぎていて意味が無い。